

## 演奏者 ▶パートトップ

### 第1ヴァイオリン

新井 美香  
榎本 学  
♪大野 愛  
川名 美穂  
長島 彩  
堀江 英  
三木 聡一郎  
山岸 奈緒子  
山本 信彦  
鹿田 玄輝 (賛助)  
中島 由恵 (賛助)  
横山 和可子 (賛助)

### 第2ヴァイオリン

♪小島 暁子  
佐藤 郁子  
富山 直美  
中山 典子  
林 秀樹  
林 昌英  
福田 久美子  
宮川 朋広  
宮島 史英  
苅谷 拓郎 (賛助)  
坂本 理紗 (賛助)  
高橋 由紀 (賛助)

### ヴィオラ

相川 美佐子  
鹿田 澄子  
♪友末 洋一  
内藤 真紀子  
二宮 奈緒美  
萩原 経  
畑中 彩  
舟曳 千冬  
安田 浩子

### チェロ

今井 悠太  
♪高原 あゆみ  
豊田 千織  
中谷 泰子  
森岡 憲一  
岩下 泰久 (賛助)

### コントラバス

井上 望  
鈴木 徹  
柳町 時敏  
柳町 弘毅  
♪山崎 歩

### フルート

白崎 哲哉  
辻 悠子  
♪宮本 英俊  
山内 久美子

### オーボエ

古田島 綾子  
♪野村 隆浩  
森永 真実子  
青柳 安紀 (賛助)

### クラリネット

♪相川 大輔  
古西 章子  
百元 朝子

### ファゴット

栗原 治男  
二上 義幸  
♪藤田 高  
藤村 伸夫

### ホルン

伊藤 正  
柴田 真砂男  
西岡 淳  
二宮 一敏  
♪南 朋子

### トランペット

石林 浩樹  
下津佐 綾  
山川 拓也 (賛助)

### トロンボーン&チューバ

植松 喜孝  
関根 一臣  
♪高橋 正積  
相馬 誠司 (賛助)

### パーカッション

♪河竹 千春  
野村 万季

### 指揮者 (50音順)

遠藤香奈子  
大浦智弘  
奥泉貴圭  
斎藤和志  
齋藤勇二  
戸澤哲夫  
永峰高志  
橋本晋哉  
(敬称略)

### 運営

団長 関根 一臣  
コンサートマスター 大野 愛  
小島 暁子  
三木 聡一郎  
山本 信彦  
柴田 真砂男  
南 朋子  
藤村 伸夫  
伊藤 正  
関根 一臣  
野村 隆浩  
野村 万季  
藤村 伸夫  
植松 喜孝  
柳町 弘毅  
山本 信彦  
高橋 正積  
藤村 亜子

### インスペクター

会計 藤村 伸夫  
ライブラリアン 伊藤 正  
録音 関根 一臣  
野村 隆浩  
野村 万季  
藤村 伸夫  
植松 喜孝  
柳町 弘毅  
山本 信彦  
高橋 正積  
藤村 亜子

### ホームページ・ML

選曲

### 演奏会

委員長 相川 大輔  
相川 美佐子  
ステージマネージャー 本野 正  
宮島 史英  
会計 柳町 美香  
チケット 二上 義幸  
ステージ 中谷 泰子  
プログラム・チラシ 豊田 千織  
広報 二宮 一敏  
記録・VTR 畑中 彩  
庶務 舟曳 千冬  
催事 古田島 綾子



# Global Philharmonic Orchestra

グローバル・フィルハーモニック・オーケストラ

1981年、静岡県オペラ協会が主催するオペラ公演への参加のため結成、「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」などを共演した。1984年以降、シンフォニーオーケストラとして年2回の定期演奏会を中心に活動を行っている。モナコ・フランス、オーストリアと2度の海外公演を行ったほか、ヴァイオリン奏者のJ.J.カントロフ氏やソプラノ歌手の故佐藤しのぶ氏、ホルン奏者のフランク・ロイド氏など多彩なソリストとの共演を果たした。創立40年を過ぎ

て当初50名程度だった団員も100名を超える大所帯となり、ある時は古典派の緻密な様式美の再現に取り組み、またある時は近現代作曲家の大曲に果敢に立ち向かうが、奏者と聴衆がともに音楽を愉しめる瞬間を創り出すという精神を忘れることなく、日々の取り組みを続けている。

年齢も職業もさまざまな、個性豊かな団員を擁するアマチュア・オーケストラである。

## 第73回 定期演奏会 ご案内

2025年9月21日(日) 13:30開演 (12:45開場)

[会場] すみだトリフォニーホール 大ホール

[指揮] 中田延亮

[曲目] ◆ニールセン 仮面舞踏会序曲  
◆エルガー エニグマ変奏曲  
◆シベリウス 交響曲第2番

[入場料] 2,000円(全席指定)

※2025年7月1日発売開始予定

[取扱い] トリフォニーホールチケットセンター  
TEL.03-5608-1212

[問合せ] globalphil.ad@gmail.com

<https://www.globalphil.net/>

※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください



# Global Philharmonic Orchestra

グローバル・フィルハーモニック・オーケストラ

Conductor

森口 真司  
Shinji Moriguchi

## Program

フェリックス・メンデルスゾーン  
ルイ・ブラス序曲 作品95

Felix Mendelssohn  
Ruy Blas Overture Op.95

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン  
交響曲第8番 へ長調 作品93

Ludwig van Beethoven  
Symphonie Nr.8 in F-dur, Op.93

ヨハネス・ブラームス  
交響曲第2番 ニ長調 作品73

Johannes Brahms  
Symphonie Nr. 2, D-dur Op.73

2025.1.19日

すみだトリフォニーホール  
大ホール

12:45開場 / 13:30開演

第72回  
定期演奏会

## Global Philharmonic Orchestra 団長挨拶

本日はご来場頂きまして有難うございます。

今回はドイツを代表する作曲家たちの作品によるプログラムをお送りします。最初にお送りするメンデルスゾーンのリイ・ブラス序曲は当オーケストラでは初めて取り上げる曲です。「レ・ミゼラブル」で有名なヴィクトル・ユゴーの戯曲「リイ・ブラス」上演のため作曲されたものです。短期間に書かれたといわれていますが悲劇をうまく表現した佳曲です。二曲目のベートーヴェンの交響曲第8番は有名な第7番と第9番に挟まれて、比較的演奏される機会が少ないですが、独創的な工夫に富んだ作品です。ブラームスの交響曲第2番は彼の交響曲の中でも明るさが前面にでた、演奏者が心地よく演奏できる曲だと思います。当団で何回も定期演奏会で取り上げている曲で、多くのメンバーに愛されています。

指揮は2年ぶりに登場の森口真司さんです。当オーケストラとのお付き合いは30年を超え、お互いの深い理解に基づき音楽を作っています。今回取り上げる作曲家3人について森口さんは深い造詣とこだわりをお持ちであり、それが演奏に良い効果をもたらすことを確信しています。

なお、ブラームスの交響曲第2番は約35年前のフランス・モナコへの演奏旅行で、ベートーヴェンの交響曲第8番は約30年前のオーストリアへの演奏旅行で演奏した曲です。当時の演奏旅行に参加したメンバーはだいぶ減りましたが、ヨーロッパの空気の中で演奏した団としての記憶を引き出しながら演奏したいと思います。

それでは、最後までごゆっくりお楽しみください。



Conductor  
**森口 真司** Shinji Moriguchi

ンコンサート」「りんご娘」(日本初演)などが各方面から絶賛された。また東京二期会を中心に若杉弘、飯守泰次郎、佐藤功太郎、ジョン・ミュンフン、クラウス・ペーター・フロール、エド・デ・ワールト、ペーター・コンヴィチューニ、宮本亜門など著名な指揮者・演出家のもと、ヤナーチェク「イエス・ファ」ワーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「さまよえるオランダ人」R.シュトラウス「サロメ」「アラベラ」「ダナエの愛」(日本初演)「ダフネ」(日本初演)チャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」など数多くの公演に合唱指揮者として参加、その手腕は極めて高く評価されている。2002年から2009年まで東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスも務めた。

東京藝術大学、二期会オペラ研修所講師を経て2008年大分県立芸術文化短期大学音楽科に着任する。現在は本拠地を九州に移し、愛媛県合唱連盟50周年記念公演「メサイア」、九州交響楽団ベートーヴェン第九演奏会、大分二期会「魔笛」「こうもり」、ホルトホール大分開館記念演奏会、文化庁・大分県立芸術文化短期大学共催「ヘンゼルとグレーテル」「フィガロの結婚」、世界的バレエダンサー首藤康之氏演出・振付によるバレエ「ドン・キホーテ」「眠りの森の美女」など数々の重要な公演の指揮を任されている。

現在、大分県立芸術文化短期大学教授、大分大学非常勤講師。



## 団長 関根 一臣

大阪府出身。京都大学文学部を経て1995年東京藝術大学大学院指揮科修了。指揮法を田中良和、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘の各氏に師事する。大学院修了後すぐブラハの春国際音楽コンクール指揮部門に於いて第3位受賞(1位なし)、同時にブラハの春国際音楽祭に出演しブラハ放送交響楽団を指揮した。以降東京フィルハーモニー交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ、東京都交響楽団、札幌交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、など全国各地のオーケストラに客演する。また岩城宏之氏に認められ、2003年から2年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務め、定期公演、オーストリア・ベルギー公演など数多くの重要な演奏会で成功を収めた。

オペラ指揮者としてこれまで30を超す作品を100回近く指揮し、大田区民オペラ/ベッリーニ「ノルマ」(「三菱UFJ信託音楽賞」受賞)ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」、モーツァルト劇場/オッフエンバック「シュフルーリ氏のサロ

## お客さまへのお願い

- ◆携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください。
- ◆私語、お荷物を整理する音など、演奏中に物音が出ませんようご配慮ください。
- ◆演奏中の入退場はご遠慮ください。
- ◆会場内での録画、録音、写真撮影はお断りいたします。
- ◆出演者への花束、プレゼントの受付は停止しておりますのでご了承ください。
- ◆会場内でのマスク着脱はお客さまのご判断に委ねますが、ブラボーなどの声援をされる場合にはマスクの着用を推奨いたします。

## Program Note

今回取り上げる3曲はいずれもドイツ生まれ、18世紀から19世紀に活躍した大作曲家によるものである。

	1740	1750	1760	1770	1780	1790	1800	1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900 (年)	
ベートーヴェン (1770—1827年)				交響曲第8番 (1812年)														
メンデルスゾーン (1809—1847年)								リイ・ブラス序曲 (1839年)										
ブラームス (1833—1897年)										交響曲第2番 (1877年)								
ゲーテ (1749—1832年)																		
ナポレオン (1769—1821年)																		

### フェリックス・メンデルスゾーン

**リイ・ブラス序曲 作品95** 【演奏時間：約8分】

メンデルスゾーンは1809年ハンブルクに生まれ、1847年ライプツィヒに38歳で没したロマン派の作曲家である。

「リイ・ブラス」はフランスの作家、ピクトル・ユゴーの戯曲「リイ・ブラス」の上演のため依頼され1839年に3日間で作曲された。同年上演の際に初演され、その10日後にメンデルスゾーン自身の指揮によりライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の演奏会の際に披露された。メンデルスゾーン自身はこの戯曲の内容が気に入らなかったにもかかわらず、これをもとにオペラを作曲しようとしたが、未完に終わった。

### ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン

**交響曲第8番 へ長調 作品93** 【演奏時間：約26分】

ベートーヴェンは1770年ドイツのボンで生まれ、1827年ウィーンに56歳で没した古典派の作曲家である。

1809年ベートーヴェンが暮らしていたウィーンはナポレオン軍に包囲され占領されてしまう。市街戦にはならず済んだものの、市の財政が破綻寸前となり郵便は止まりフランス軍が市内を横行し、楽想を練るための散歩もままならず郊外へ避難する。その中でピアノ協奏曲第5番、ピアノ・ソナタ第24,25,26番など名作を世に出していった。1812年ナポレオンがロシア遠征を行っていたころ、ベートーヴェンは医師の勧めでボヘミアの温泉保養地テュープリッツを訪れている。この地には欧州各国の要人もナポレオンを警戒して集まっていたが、ベートーヴェンは共通の知り合いベッティーナ・ブレンターノを介してここで文豪ゲーテと出会い、互いに大きく刺激を受けている。そのベッティーナの兄の妻アントーニエ・ブレンターノが「不滅の恋人」であろうというのが現在の定説である。そのような状況の中、同年41歳の時に交響曲第7番、第8番を完成させた。1814年にウィーンで自身の指揮により2曲同時に初演を迎えたときには7番に人気が集まった。この2曲は非常に対照的な性格を持ち、第7番はロマンチックな性格を持っているのに対し、第8番は古典的な要素を強く残している。ベートーヴェン自身は手紙の中で大交響曲(第7番)と小交響曲(第8番)を書いたこと、第8番のほうがはるかに優れていることを述べている。古典的な形式をとりながら、その中に革新性と独創性を織り込んでいるところにこの作品の魅力がある。

第1楽章 Allegro vivace e con brio へ長調 4分の3拍子 ソナタ形式  
第2楽章 Allegretto scherzando 変口長調 4分の2拍子  
展開部を欠くソナタ形式

第3楽章 Tempo di Menuetto へ長調 4分の3拍子 複合三部形式  
第4楽章 Allegro vivace へ長調 2分の2拍子  
ロンドの性質を持ったソナタ形式

### ヨハネス・ブラームス

**交響曲第2番 二長調 作品73** 【演奏時間：約45分】

ブラームスは1833年ハンブルクに生まれ、1897年ウィーンに63歳で没したロマン派の作曲家である。

古典派音楽で発展した交響曲の形式を持つ音楽はハイドン、モーツァルトを経てベートーヴェンでその頂点を迎えた。その後ロマン派の音楽へと移りメンデルスゾーン、シューマンなどさまざまな作曲家によって交響曲は作曲されたが、リスト、リヒャルト・シュトラウスといった標題音楽、交響詩の方向に発展していった。その中でブラームスだけは標題音楽を排除して古典的な音楽を継承しようとした。19世紀ロマン派文化の花咲く時代の中にあってブラームスは新古典主義と呼ばれるようになった。

ベートーヴェンを深く敬愛していたブラームスは交響曲の作曲家としては非常に晩成型で、第1番の交響曲を完成したのは1876年43歳の時であった。彼はベートーヴェンの9つの交響曲がある以上、交響曲を作曲するのは意味がない、とまで思っていたようだ。それだけに交響曲を作曲しようとしたものはなかなか交響曲という実を結ばずにピアノ協奏曲など別の形式の音楽にかわってしまい、習作を重ねるうちに20年以上の歳月が経過してしまった。ようやく完成した重厚な第1交響曲はハンス・フォン・ビューロー(19世紀ドイツの指揮者)をして、ベートーヴェンの第10交響曲といわしめたことは余りに有名である。

ところが第2番の交響曲はその翌年の1877年、南オーストリア、ヴェルター湖畔ベルチャハに避暑のため滞在した時に約3ヶ月で大半を完成した。推敲を重ねてようやく完成した第1交響曲とは対照的に、一気に書き下ろしたものと言えるかもしれない。避暑で過ごした湖畔の美しさに感銘を受け、「ベルチャハにはたくさんの旋律が飛び交っていて、それらの旋律を踏みつけないようにしなければなりません」とクララ・シューマンに書き送っている。この時感じた幸福感から受けたインスピレーションがこの交響曲に少なからず影響を与えた。曲想は伸びやかで喜びに満ちていて、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」に例えられブラームスの「田園」交響曲とも呼ばれることがある。  
第1楽章 Allegro non troppo 二長調 4分の3拍子 ソナタ形式  
第2楽章 Adagio non troppo—L'istesso tempo, ma grazioso 口長調 4分の4拍子 自由なソナタ形式  
第3楽章 Allegretto grazioso (Quasi Andantino) — Presto ma non assai—Tempo I 卜長調 4分の3拍子  
第4楽章 Allegro con spirito 二長調 2分の2拍子 ソナタ形式

(コントラバス/柳町弘毅)